

10.21 国際反戦デー

横須賀・東横



戦闘的な市内デモ、基地ゲート前抗議のシュプレヒコール

日刊 動労千葉

84. 10. 23

No. 1773

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五（六・公衆）〇四七二（二二）七二〇七

動労千葉百十名 総評隊列の最先頭で決起

10・21国際反戦デーにあたる21日、横須賀・臨海公園において社会党・総評はじめ主催六団体と協賛二団体の八団体により、関東・各県より、二万五千人の労働者が結集して「反戦・反核・平和・10・21横須賀大集会」がおこなわれた。

また同日、東京・芝公園において開催された、三里塚反対同盟や動労千葉中野委員長・関川顧問等をはじめとする全国の闘う人士の共同のよびかけによる「10・21三里塚―反戦全国統一行動・中央総決起集会」には、動労千葉を代表して関川顧問が連帯のあいさつをおこなった。

機動隊の妨害はねのけ、戦闘的デモンストレーションを貫徹

朝までぐずついていた天気があがり、秋晴れのなか動労千葉の動員者は早朝より決起し、百十名の組合員は、全員ゼッケンとハチマキを身につけて、米海軍と自衛隊の基地を目の前にする臨海公園にむかう。労働者がぞくぞくと続くなか、横断幕・鉄輪旗をなびかせて、すでに開始されていた会場に合流した。

集会は、総評の黒川議長、飛鳥田護憲連合議長等から、「幅広い平和運動を進めていこう」「反核・反トマホークを安保反対・軍事大国化阻止の重要な柱として闘っていこう」とそれぞれ挨拶がおこなわれた。集会後のデモは、総評および県労連の宣伝カーを先頭に、千葉県下の労働者の隊列が最先頭を担った。動労千葉のデモ隊は、元氣よく会場から横須賀の街におどり出る。開始後、まもなく左手に機動隊と装甲車でガチガチに守られた米軍・横須賀基地ゲート前にでる。横須賀市民が見守るなか、ゲート前で 怒り のシュプレヒコールと糾弾の嵐をたたきつけた。「侵略粉碎・空港反対」の天にも届かんばかりの勇ましいかけ声でデモ行進を続け、さらに「三里塚二期阻止」「反動・中曽根打倒」「国鉄民営・分割化阻止」「10万人首切りを許さないぞ！」の大きなシュプレヒコールが街にこだまし、買物や街行く市民から熱い共感を呼んだ。

こうした反戦・反核・三里塚を闘う動労千葉の確信に燃えた戦闘的隊列にのみ集中的に機動隊は執拗に妨害・挑発策動を繰り返してきた。しかし、われわれは、機動隊の露骨な妨害策動を完全に粉

砕し、ゲート前から横須賀中央駅前を左折し、共済病院入口まで戦闘的デモを最後まで闘い抜いた。

三里塚―反戦・反核闘争の拡大で、中曽根を倒そう

10・21反戦闘争をたたかう意義は決定的に重要な課題である。集会宣言でもあきらまかなように、アメリカ・レーガンによる核戦争政策によって、本年6月以降、米太平洋艦隊に核巡航ミサイルⅡトマホークを実戦配備し、塔載予定艦である米海軍の原潜「タニー」や「インディアナポリス」が6月と9月に相次いで横須賀に入港している。

このことは、「非核三原則」すらふみにじる攻撃であり、米軍基地をかかえる横須賀はおろか日本全土を核戦争の最前線基地にする恐ろしい攻撃であり、絶対に阻止しなければならない。核兵器の全面廃棄を全力で取り組まなければならない。とどまるところを知らない核軍拡競争が激化するなかで、反動・中曽根内閣は積極的に軍事大国化・改憲・核武装への路線を突き進み、日米共同演習の強化とレーガンの核戦争政策を積極的に支えている。こうした情勢のなかで今こそ、「反戦・反核」「三里塚」の戦いの勝利が決定的に問われている。

「反戦・反核」草の根運動の拡がりとして三里塚・反戦を闘う労働運動の戦闘的発展をちとるなかで、戦争と反動の元凶―中曽根打倒をちとって

11.3 結成 5周年 国鉄祭典運動会
11.10 国鉄労働者集会